

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871100471		
法人名	日本ロングライフ(株)		
事業所名	ラビアンローズ宝塚		
所在地	〒665-0864 宝塚市泉町6番6号 (電話) 0797-85-6097		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2008年10月17日	評価確定日	2008年11月25日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 20年 5月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 19人, 非常勤 4人, 常勤換算	20.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐火構造	造り
	3階建ての	~ 1・2・3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(680万円入園金として)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 2,000 円		

## (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	25名	男性 5名	女性 20名
要介護1	0名	要介護2	5名
要介護3	13名	要介護4	4名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 86.4歳	最低 76歳	最高 97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人祥風会 みどりクリニック
---------	------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・「老いることは楽しいこと」をモットーに、これまでの生活を出来るだけ維持する環境作りと、サポートに努めている。特技や趣味を持った利用者が多く、残存能力を活かす工夫をしている。本人の好みにまかせながらも温かく見守り、その人らしい暮らしに配慮している。利用者以上にお客さまとして扱うホームの姿勢がうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・地域密着型サービスとしての理念の作成、運営推進会議への家族の参加についてが課題であった。理念についてはまだ取り組めていないが、運営推進会議の案内は毎回全家族に通知しており参加されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・各フロアリーダーが分担して作成し、ケアマネとホーム長がまとめた。初めての取り組みであったが、地域との関わりの重要性を認識できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・法人及びホームからの現状報告や活動状況が主である。参加家族からは質問や意見が出されたり、行事の行き先などの提案を受けることもある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・家族会はないが、運営推進会議終了後に参加家族の懇談会を開催し、家族間の交流を図るとともに、ホームへの意見や要望を聞かせてもらっている。普段の来訪時にも積極的に意見を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域で催される行事は多くはなく参加は限られている。ホーム前の公園で遊ぶ子どもに声を掛けたり、道で会った近隣住民と挨拶を交わしたり、話しかけをして交流の糸口作りに努めている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスとしての理念はまだ作成されていない。		・地域密着型サービスがグループホームの基本理念なので地域と密接につながり、その中で共存することを理念に具体化することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝礼時に会社の基本理念を唱和し、利用者の安心と尊厳ある生活を営めるよう心がけている。些細な状態変化や気づいたことは申し送り等で確認し共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会には所属していないが、近隣の行事には出かけている。ホーム前の公園で遊ぶ子どもに声をかけたり、出会う人とはあいさつをかわすなど交流の機会に努めている。		・地域の情報を収集し、参加可能な催し等には積極的に出向いて行ったり、ホーム主催の行事に参加を促す取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、各フロアリーダーが分担して行いケアマネとホーム長がまとめた。評価の意義を理解しつつも、自己評価項目を十分理解したとはいいがたく地域との関わりの大切さを感じた。		・今回の自己評価及び第三者評価を全職員が理解に努め、共有する機会とされ、次回是个々の職員が自己評価に取り組まれたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・自治会役員、市及び地域包括支援センター担当者に家族、ホーム関係者が出席して行われている。法人及びホームの活動状況報告等が主である。家族には貴重な意見交換の機会となっている。</p>		<p>・地域住民からの積極的な参加を図るとともに、ホームへ意見を出してもらうためにホーム自ら働きかけていくことが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・現在のところ制度上の事務处理的なやり取りに終わっている。</p>		<p>・ホームの現状理解など日頃から気軽に意見交換できる関係を築く姿勢が必要ではないだろうか。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・月初めに、請求書等の事務連絡と一緒に担当職員の一言メッセージと写真を添えて家族に個々に郵送している。必要に応じて電話やメールで報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族会は無いが、運営推進会議終了後に参加家族の懇談会を行っている。来訪時には職員やホーム長が面談し、こちらから利用者の様子を伝えながら意向を聞くようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人内での異動はやむをえない状況である。異動時は十分な申し送りを行い、引継ぎにはできるだけ時間を取るよう努めている。</p>		<p>・グループホーム及び認知症の特性から馴染みの関係性は重要である。利用者の気持ちに配慮したケアをすすめていただきたい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・入社時の研修から初・中・上研修と段階に応じて本社で行っている。外部からの情報は全職員に回覧し希望者には参加してもらっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内の同業者との交流はまだ行われていない。		・市担当者に相談し協力を要請し、代表者や職員の交流機会の実現を期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・フロアリーダーとケアマネが自宅を訪問し利用者に関する情報を収集するとともに、体験入居を通してホームの生活に馴染んでもらうことを基本としている。特に入居前後は家族の協力を得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の気持ちを尊重し、好きなことをしてもらうことを優先し、個々の支援に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・フェイスシートを基に、個々の情報を把握し日々の生活に活かすよう努めている。意志表示できない意向の把握しにくい人には時間をかけた対応をしている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・個々の生活歴を基に日々の様子を踏まえ担当職員が計画を作成し、全職員で検討しケアマネが確認している。3ヶ月に1回、本人の思いを「グッドフィーリングプラン」として反映し、家族の協力を得ながら支援している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・担当職員が、2週間に1度を目標に見直し、全職員で検討し計画に反映させている。家族には見直し以前から相談するとともに意見を聞いている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・法人グループの機能を活かして、共同で日帰り旅行やコンサートに行ったり、福祉用具、病院等の情報提供がなされ、利用者の満足のための支援されている。医療連携体制も図られている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・協力病院、歯科医院、マッサージの定期往診がある。かかりつけ医の受診や接骨院通院は職員が同伴している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・本人、家族の希望で看取りを行なっている。入居時のアセスメントでターミナルに関する希望を聞き取り、状態の変化に応じて、家族、医師、職員で話し合いを持っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・個人情報の保護を徹底し、プライバシーの保護について、朝礼で唱和して日常業務に入っている。慰めるのではなくさりげなく対応し、意思疎通の図れない利用者にも必ず声かけをして介護するなど尊厳を損ねないように努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・「グッドフィーリングプラン」でケアプランのほかに利用者の望む暮らしや計画を作成し、日々の支援に活かしている。利用者のその日の様子で、個別に買い物に同行したり、音楽を聞いたり、本を読む等の対応をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食・夕食は料理長が法人共通のメニューで調理し、朝食とご飯、汁物、おやつは各ユニットで職員が作っている。職員は各自持参の弁当を利用者と一緒に食べる。料理長が休みの日の昼食は(週1~2回)利用者の希望を聞いて職員が調理し、一緒に食べている。		・食事の一連の過程、献立を決め、買い物に行き、調理し、食べ、後片付けまでのやり取りの中に利用者のできることが多くある。料理長の休みの日の昼食に職員の工夫が伺えるが、更に利用者の参画について工夫されることを望みたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週2回昼食後入浴時間を設けている。大浴場、個浴、機械浴があり、状態や希望に応じて入浴日以外も希望があれば入浴できる。入りたくない人にはタイミングを見て声かけし、入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・各ユニットに楽しみ係担当職員がいる。個別の楽しみを利用者と共に見つけ、イベントや外出に出かけたり、特技を活かした作品展などを実施している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ホームの敷地内にウッドデッキや温室があり、外気に触れることができる。近くのお地藏様に参ったり、コンビニへ買い物に行ったりもしている。以前住んでいた町の商店街やお誕生日の夕食等利用者本位の外出支援も行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は開けているが、門はオートロックされている。家族は安心でき、職員は利用者が外へ行きたい様子を見逃さず一緒に散歩もしているが、外部の人を近づけない弊害があるかとホームは考えている。		・敷地内に温室や四季の花が咲いている庭もあり、環境面が利用者の閉塞感を軽減していると思われるが、地域に開かれたホームとしては、門扉の施錠開放等を検討されたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回夜間想定も含め避難訓練を行なっている。緊急連絡網も作成、備蓄については準備中である。職員は車椅子の利用者の避難方法を学ぶ等意識が高い。		・災害に備えて、地縁組織に声かけし避難訓練に協力してもらう等、地域との連携体制の整備が求められる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一日の食事摂取量と必要に応じ水分摂取量を記録している。食事形態を考慮したり、好きな飲みやすいものを別途提供する等暮らし全体を通じた個別の支援を行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・昔使っていたミシンやアイロン、馴染みの木堀やポンプ井戸、ポスターや広告が配置され、くつろげる空間作りがなされている。リビングは小グループに分かれテレビを見たり、くつろいだりでき、シンプルな飾り付けがなされている。		・居室やトイレの場所表示がわかりにくい。認知症の人が自立した生活を続けるために、居室やトイレ等は誘導がなくても区別できる表示等の工夫が大切と思われる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンスや椅子等使い慣れた家具や自作の人形や絵画等を持ち込みされ、落ち着いて過ごせる工夫がされている。		

 は、重点項目。